

「日々の理科」(第1791号) 2019,-6,-4

「裏磐梯紀行(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

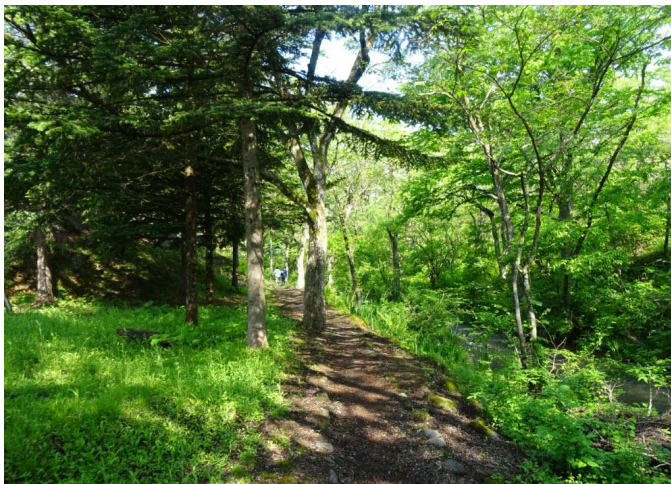
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

金曜日の会津地方は一晩中雨だった。私は夜中に客室を抜け出して、磐梯山を背景に天体写真を撮ろうと思い、用意していた。およその撮影場所の目星もつけておいたのだが、残念だった。



翌朝はよく晴れた。気温は15℃以下で、半袖では寒いぐらいだった。このあたりの標高は約800m。北軽井沢よりは低いが、似たような気候と感じた。樹皮の美しいシラカバが多いのも、北軽井沢と似ている。



泊まった宿舎は、裏磐梯でも有数の大型ホテルである。食事も素晴らしく、夕食バイキングには「会津の郷土料理」や「B級グルメ・ソースかつ丼」、「喜多方ラーメン」や「勝手に海鮮丼」まで楽しめた。敷地内に自然遊歩道が設置されている。一周15分ほどだが、朝の散策やジョギングには最適である。



遊歩道の脇には川も流れている。この川も桧原湖や小野川湖が源流で、長瀬川に合流して、猪苗代湖に流れ込む。結構流れが速いのに驚いた。



私は植物やキノコを観察しながら、ゆっくり歩くことにした。最初に見つけたのは「mamshigusa」。サトイモ科の野草で、独特の様子がmamshiに似ているところからついた名称だという。毒草で、特に球根は猛毒。サトイモ科だからといって、決して食してはいけない。



こちらも球根植物の「ウバユリ」。「姥百合」の名の通り、花を咲かせた姿はあまり美しくない。しかし花の香りは強く、遠くからでも咲いていることに気付く。